

情報をつなぐ、世界をつかむー地域情報学で変わる地域研究ー

日時：2012年4月28日(土) 13時30分～18時20分

場所：稲盛財団記念館大会議室(3階・333号室)

趣 旨

地域研究の考え方や手法が他の専門的な学問分野に広がると同時に、地域社会でも自律的な情報収集・発信能力が向上し、その両方から得られる膨大な地域関連情報が、研究機関や行政機関、地域社会を含め、世界各地に散在して蓄積されるようになった。1990年代以降、この傾向はとくに顕著となる。しかし、地域を理解するための情報(地域関連情報)は、断片的に発信されるばかりか、作り手側の意図によって意味や形式が統一されていないため、通常、利用者にとってこれらの情報は記号としての意味しか持ちえない。しかし地域研究で多様な地域関連情報を利用するにあたっては、個別の情報が本来持っていた地域性や歴史的経緯に関する背景情報を抽出し、自ら得た特定の情報と組み合わせて“生きた”情報として再構築し、研究課題の解決に利用する必要がある。

地域研究統合情報センターではこれまで、情報学を地域研究に援用した地域情報学の構築を進める過程で、地域研究で利用可能なふたつのタイプのデータベースの構築を進めてきた。ひとつめは多様な情報資源を共有化するための汎用的なデータベースであり、これらのうちのいくつかは地域研のホームページですでに公開している。もうひとつが、個別の地域研究課題の解決に特化し、目的に応じてカスタマイズが可能な統合型地域研究データベースである。研究者ひとりひとりが蓄積するなんらかの研究課題に関する情報に、地域情報学の手法を応用し、さまざまな地域関連情報を付け加え、分析可能とするタイプのデータベースであり、マイデータベースといってもよい。マイデータベースを作る過程は、地域研究の過程そのものである。情報に埋め込まれた文脈依存的な背景情報をいかに抽出するのか、研究と実践の双方にメリットのある情報分析と発信方法をどのように工夫すればよいのか、聞き取りや参与観察の記録といった地域に特化した経験的データを他の地域関連情報とどのように組み合わせて一般化できるのかといった課題に直面し、乗り越えることで、新しい地域研究の展望が開けると考えられる。本ワークショップでは、地域研究の現場でも起きているそうした課題に対し、地域情報学のアプローチを用いて、どのように対応し、地域研究のどのような成果となりうるのかについて考える。

プログラム

13:30 ~ 13:35	はじめに 林 行夫 (地域研センター長)
13:35 ~ 13:45	趣旨説明 柳澤雅之 (地域研)
13:45 ~ 14:25	災害地域情報の多目的利用ー研究と社会をつなぐー 報告者: 山本博之・西 芳実 (地域研)
14:25 ~ 15:05	ポスト社会主義諸国の選挙・政党データベースの「活用」に関する2つの試論 報告者: 仙石 学 (西南学院大学法学部) 小森宏美 (早稲田大学教育・総合科学学術院)
15:05 ~ 15:20	Coffee Break
15:20 ~ 16:00	フィールドノートの利用可能性ー経験的データから共有可能データへー 報告書: 柳澤雅之 (地域研)
16:00 ~ 16:40	寺院マッピングー見えないものを写像するー 報告者: 林 行夫 (地域研)
16:40 ~ 17:10	トルキスタン集成ー現地との協働による希少資料の保存・共有・活用ー 報告者: 帯谷知可 (地域研)
17:10 ~ 17:25	Coffee Break
17:25 ~ 18:15	コメントおよび総合討論 コメント: 伊東利勝(愛知大学文学部) 武内進一(ジェトロ・アジア経済研究所/JICA研究所)
18:15 ~ 18:20	おわりに 原 正一郎 (地域研)

18:30 ~ 懇 親 会 場所：稲盛財団記念館中会議室(3階・332号室) ※会費制

休憩室では現在地域研が公開している各種データベースのデモンストレーションを行います。ぜひお試しください。

問合せ先：共同利用・プロジェクト構想委員会
project@cias.kyoto-u.ac.jp